

～ 未 来 の 学 校 プ ロ ジ ェ ク ト ～

これからの学校のあり方についての 地域対話



まんなかに愛のあるまち
CHiNO
茅 野 市

1

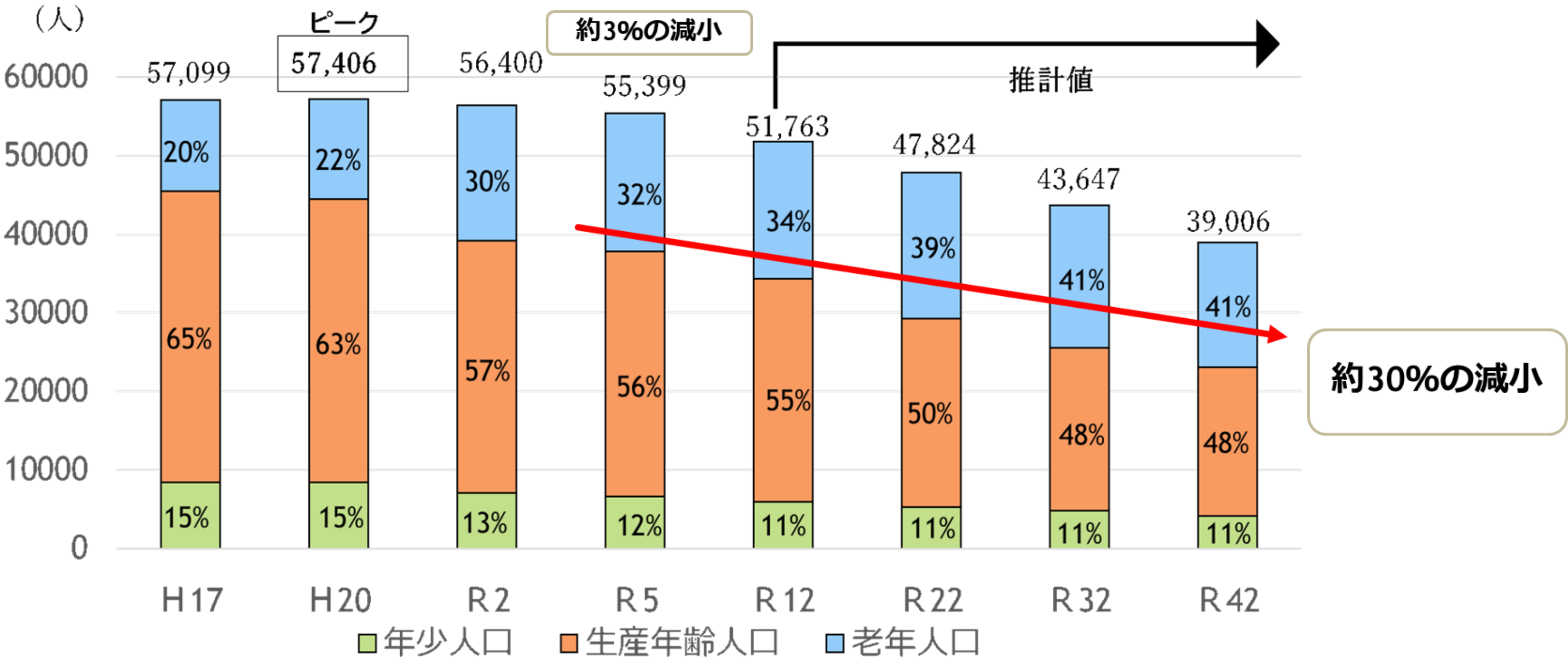
人口の推移について



市全体の人口の推移

将来推計人口

(国立社会保障・人口問題研究所の推計方法に準拠して独自に推計)



児童数の推移

市内児童数の推移		(長野県の学級編成基準に基づきクラス数を算出)										R 7.5.19時点				
	R07(2025)		R08(2026)		R09(2027)		R10(2028)		R11(2029)		R12(2030)		R13(2031)		R13とR7の対比	
	クラス数	児童数 (人)	クラス数	児童数 (人)	クラス数	児童数 (人)	クラス数	児童数 (人)	クラス数	児童数 (人)	クラス数	児童数 (人)	クラス数	児童数 (人)	児童数 (人)	減少率 (%)
永明小	16	484	16	487	15	445	15	425	16	432	15	410	15	411	-73	-15.1
宮川小	22	654	21	619	20	587	19	574	17	528	17	500	17	488	-166	-25.4
米沢小	11	229	11	227	10	219	9	214	8	204	7	178	7	178	-51	-22.3
豊平小	8	205	8	200	7	184	7	184	7	174	8	179	8	166	-39	-19
玉川小	22	627	21	608	20	579	19	550	18	541	17	497	16	457	-170	-27.1
泉野小	6	72	6	71	6	64	6	57	6	57	6	50	5	45	-27	-37.5
金沢小	6	95	6	83	6	75	6	74	6	70	6	62	6	55	-40	-42.1
湖東小	7	183	7	172	7	176	7	161	6	157	6	154	6	137	-46	-25.1
北山小	6	105	6	104	6	89	6	92	6	78	6	75	6	64	-41	-39
合計	104	2,654	102	2,571	97	2,418	94	2,331	90	2,241	88	2,105	86	2,001	-653	-24.6

2

国や県の制度について



学校の規模

学校規模

《国基準》

次の小中学校の学級数を基準としています。ただし、地域の実態その他により特別の事情がある時は、この限りではないとしています。

小学校基準学級数12～18学級

中学校基準学級数12～18学級

学級編成

《県基準》

1 学級の人数

- 通常学級 35人以下
- 複式学級※ 8人以下

※複式学級については9～10ページ参照

教員の配置について①

学級数	校長	教頭	担任	専科※	合計
1～5 学級	1名	1名	1学級 1 名	—	3～7名
6～13学級	1名	1名	1学級 1 名	1 名	9～16名
14～25学級	1名	1名	1学級 1 名	2名	18～29名
26学級～	1名	1名	1学級 1 名	3名	31名～

※専科については8ページを参照

教員の配置について②

専科とは

専科指導教員のことで、担任以外で特定科目の授業をする教員のことです。

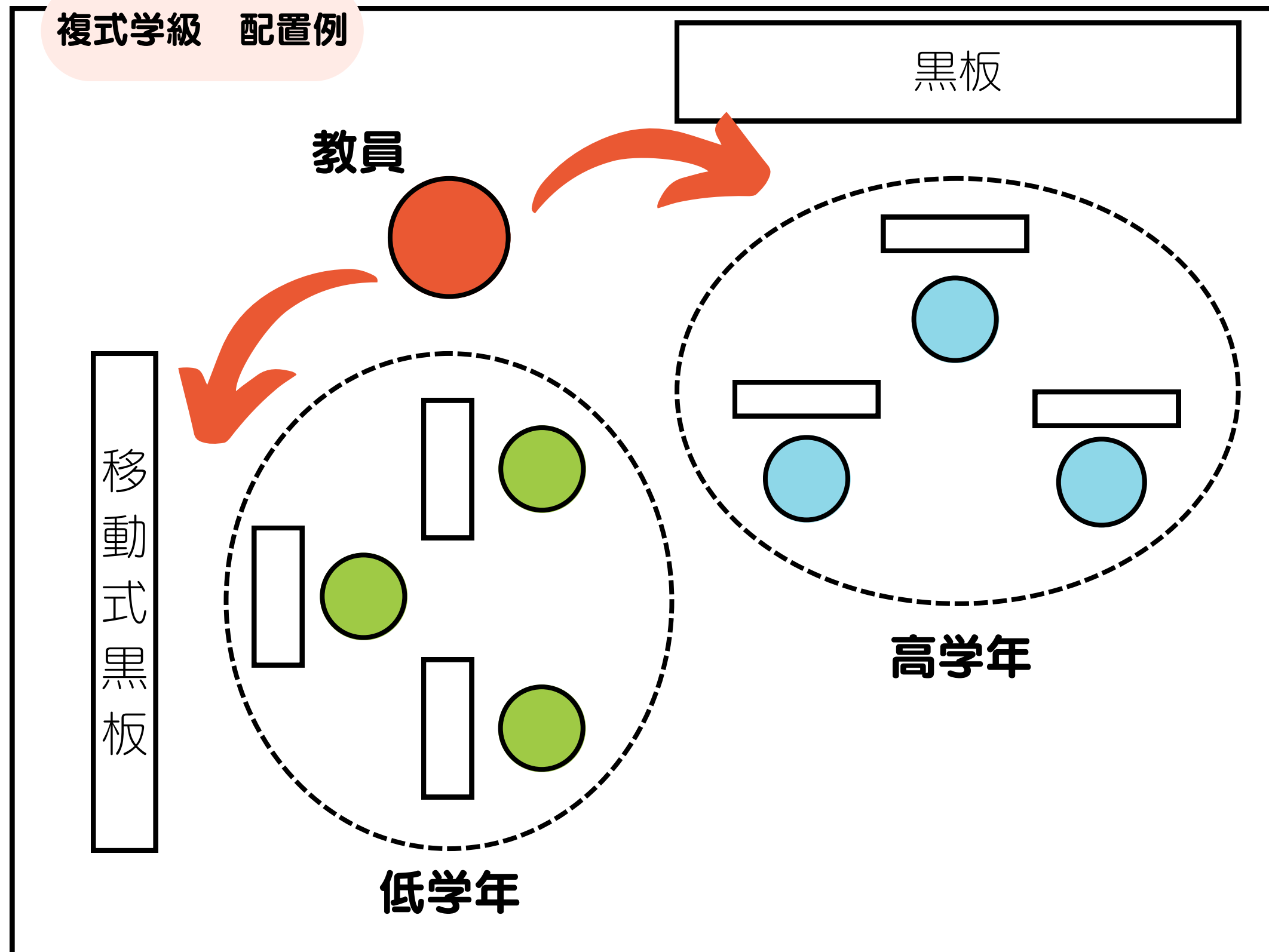
小学校では、主に音楽や理科の専科指導教員の配置となることが多いです。

加配とは

長野県では、1学級30人を超えた場合、教員を通常の基準以上に配置する制度があります。

また、クラス数が複数の場合、状況によって教員を通常の基準以上に配置する制度があります。

複式学級について①



- 引き続き2つの学年の児童生徒数の合計が8人以下となる場合、複式学級となる。
- 1つの教室で2学年が一緒に授業を受ける。
- 教員が2つの学年を行き来しながら授業を進める。
- 他学年を指導している間、子どもだけで学習をすすめる間接指導も行われる。

複式学級について②

《メリット》

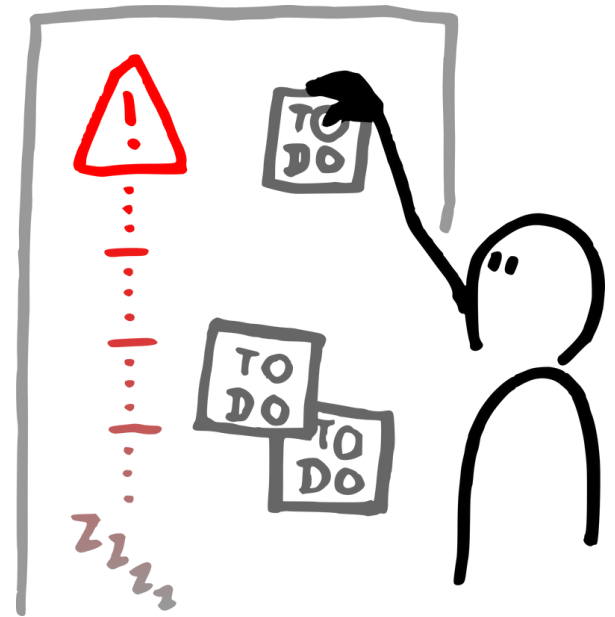
- 異学年との関わりによりお互いに学びあう環境が作れる。
- 協力や助け合いの意識がはぐくまれる。

《デメリット》

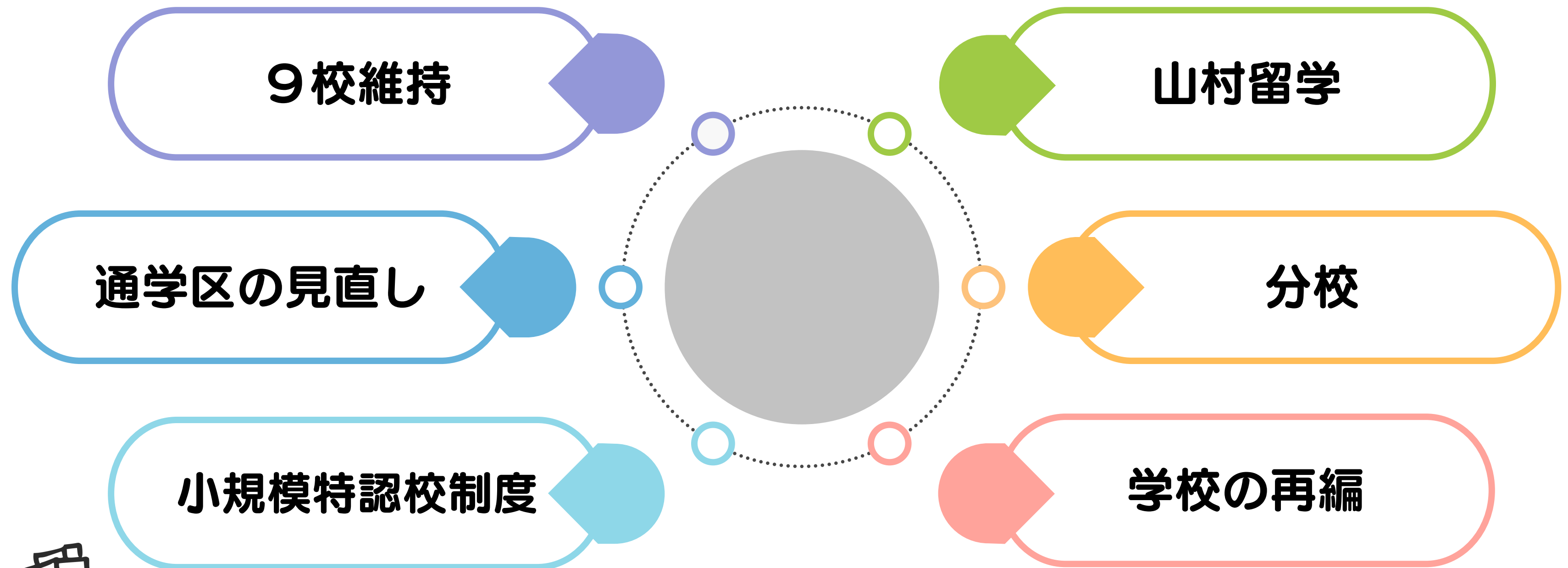
- 間接指導が多くなる(実験等に制約)
- グループ活動や協働的な学びに制約が生じることがある。
- 専科教員の配置がない。
- グループ学習や習熟度別指導など多様な指導形態が行いにくい。
- 教員も少人数となり経験や教科などバランスの取れた配置がしにくい。
- 少人数のため社会性を育みにくい。

3

考えられる6つのパターン



6つのパターン



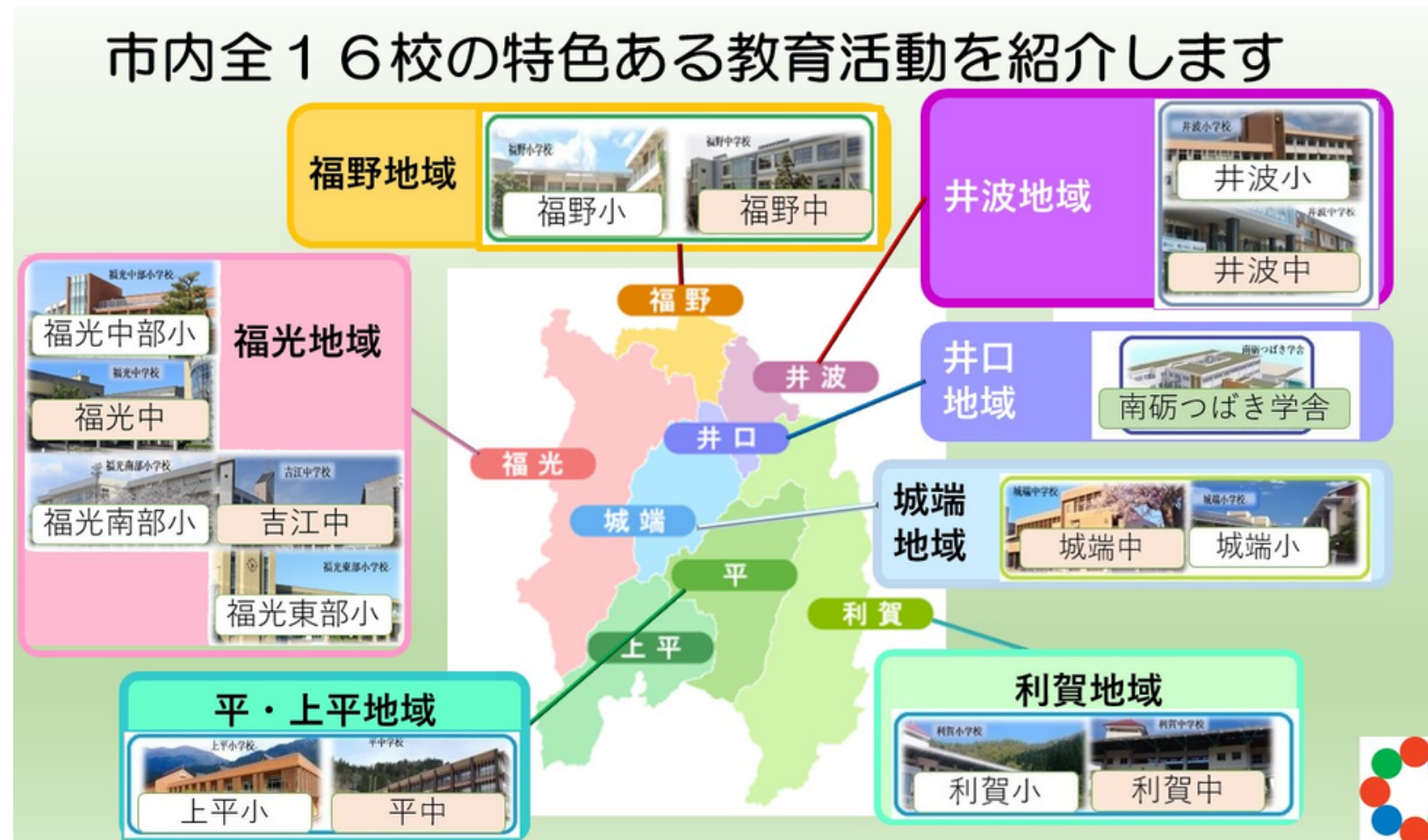
パターン①-1 「9校維持」

【茅野市】

現在、9小学校（合併前の1町8ヶ村にそれぞれ小学校）がある。

【事例】富山県南砺（なんと）市

- 合併前の4町4村には学校機能を1校ずつ維持。
- 学校の統合は、同一校区で小中学校を統合し義務教育学校にするか、隣接中学校を統合する。
- 地域ごと協議組織を設置する。
- 約5年ごとに学校統合の方向性を協議する。

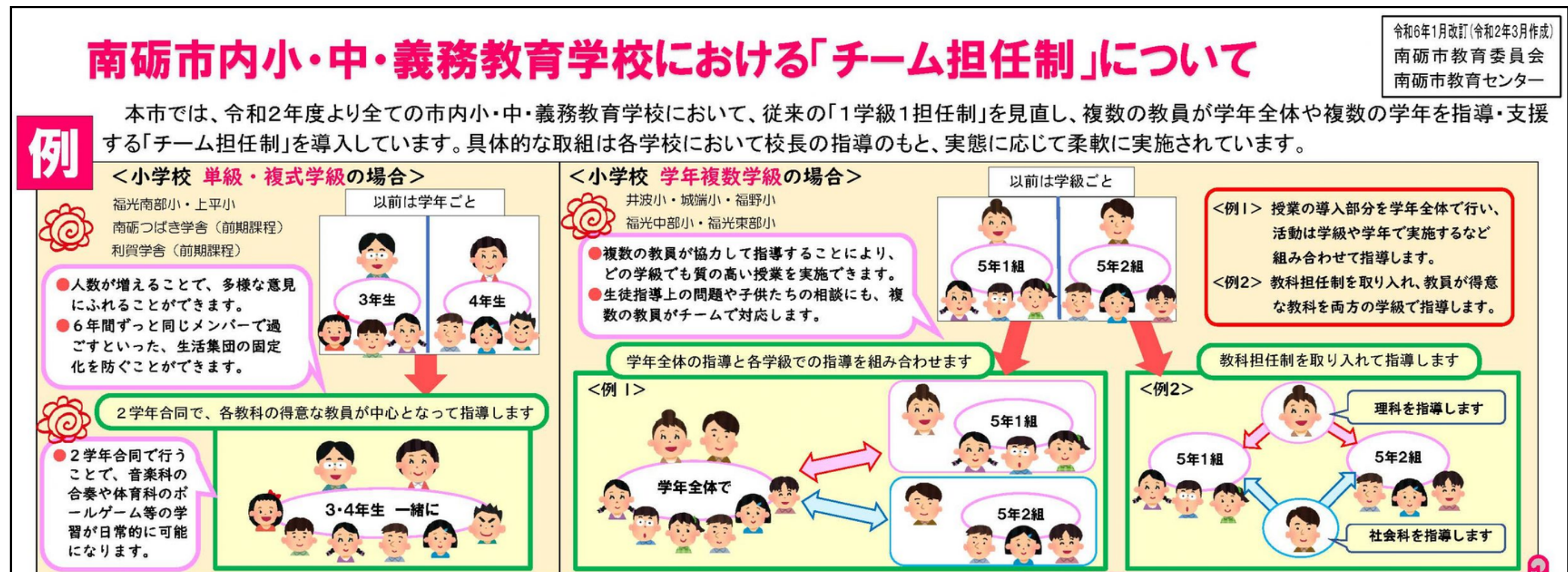


南砺市ホームページより抜粋

パターン①-2 「9校維持」

【課題への対応】 小規模となる教育環境への対応

- ・チーム担任制
- ・地域基盤の小中一貫教育



南砺市ホームページより一部抜粋

パターン①-3 「9校維持」

《メリット》

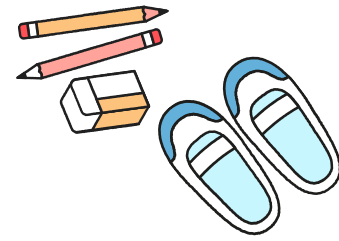
- 地域に学校機能を残すことができる。
- 小規模のきめ細かな指導ができる。
- チーム担任制等の取り組みをした場合、教師の専門性を生かした指導や学年・学校全体を見渡した学校経営がしやすい。

《デメリット》

- 1学年の人数が一桁になったり、複式学級が生じる懸念がある。
- 築40年を超える校舎が多く老朽化が進んでいるが、建て替えや大規模改修の長期計画が必要となる。一定の築年数を超えた場合でも、複数の学校の建て替え等を同時期に行うことは難しい。

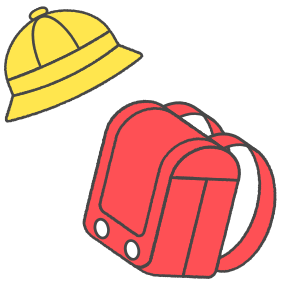
パターン②-1 「通学区の見直し」

【事例 1】長野県松本市



- 通学距離を理由とする指定校変更を認める。（通学区区域制度の弾力的運用）
- 運用後、子ども達と地域との関係の希薄化、地域の子ども同士の繋がりの希薄化について検討された経緯がある。

【事例 2】新宿区四谷地区



- 児童数が増加し増築をしている学校がある一方、単級となっている学校が存在している。区立小学校の教育環境の維持向上を図るため、学区の見直し検討を進めた。

パターン②-2 「通学区の見直し」

《メリット》

- 現在通学している学校より近くに学校がある場合は、通学距離が短くなる。
- 通学区制度の弾力的運用とした場合は、柔軟な対応が可能。（通学距離・男女比など）

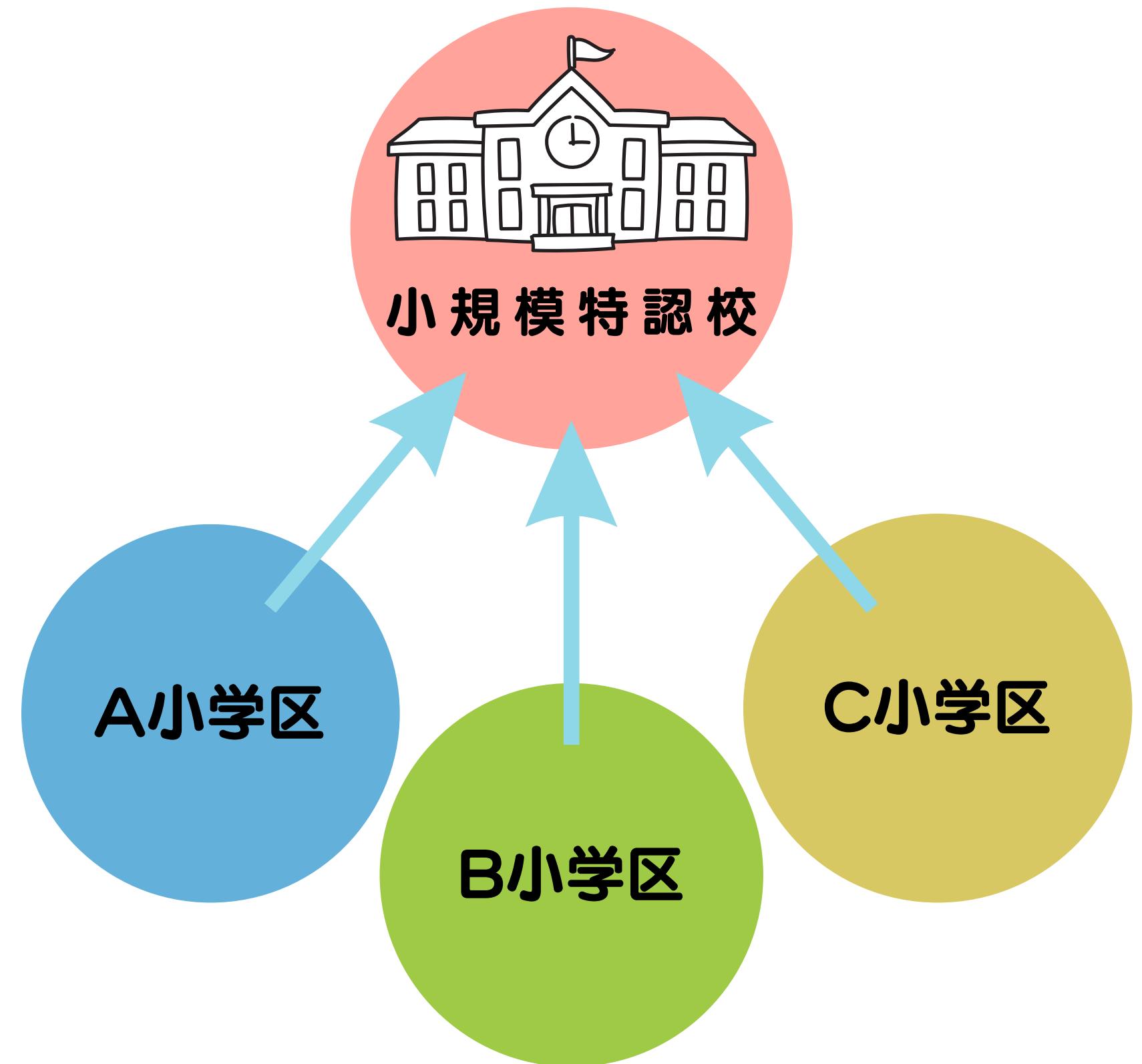
《デメリット》

- 学区をまたいで保護者や地域の理解が必要。
- 人数の平準化を目的とする場合は、市内全域で検討が必要。
- 地域の歴史的経緯や住民感情など十分に考慮が必要。

パターン③-1 「小規模特認校制度」

「小規模特認校制度」とは…

小規模特認校制度は、小規模の特徴を生かした学校運営を希望する保護者や児童に、通学区域外からの通学を認める制度。



パターン③-2 「小規模特認校制度」

【事例 1】伊那市立新山小学校

(令和6年度)

児童数46名、制度利用者8名

- 平成21年度～ 小規模特認校制度開始
- 地域全戸（200戸）がPTAに加入。
- 児童と地域が相互に高めあうことを目標に活動。
- 令和7年度から近隣小学校と遠隔授業の実施や行事共同で開催。



パターン③-3 「小規模特認校制度」

【事例2】大町市立八坂小中学校 (義務教育学校前期課程)

(令和6年度)

児童数49名 制度利用者6名・山村留学9名

- ・特認校制度利用者や山村留學生も地区の子ども会に入り、地区行事に参加する。
- ・令和6年度は特別支援入級者が増えたためコンテナで特別支援学級を増設して対応。



パターン③-4 「小規模特認校制度」

《メリット》

- 学校の特性や小規模の良さを活かす学校運営。
- 少人数できめ細やかな指導ができる。
- 複式学級の解消になる可能性がある。
- 地域が関わり子育てを支援する必要性が生まれる。

《デメリット》

- 学区外通学する児童の通学距離が長くなる。
- 男女比のかたよりが解消できない場合がある。
- 支援学級の定員を超える場合は、制度利用を断るケースもある。
- 地域との連携を継続できる体制を作る。

パターン④-1 「山村留学制度」

「山村留学」とは…



都市部の子どもたちが自然豊かな農山村地域の共同宿泊施設や農家などで暮らし、地元の学校に通いながら、自然体験や生活体験をする取組。

パターン④-2 「山村留学制度」

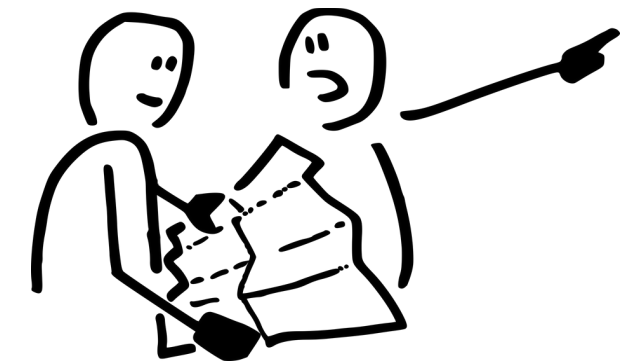
【事例】長野県南相木（みなみあいき）村

（令和7年度）

児童数53名

その内、制度利用者18名（主に関東圏から）

- 人口1000人。キャッチフレーズ「1/1000の留学」
- 令和2年度から親子留学の受け入れ。
- 原則、4/1～3/31の1年間。
- 体験入学をしてもらってから、留学申請を受け付ける。



パターン④-3 「山村留学制度」

《メリット》

- 都市部と地元の子が互いに高めあう相乗効果がある。
- つながり人口の増加。
- 地域の活力創生につながる可能性がある。
- 制度利用後に定住する人もいる。

《デメリット》

- 地域の受け入れ体制が必要。
- 居住場所の確保。
- 児童数を増やしたい受け入れ側と豊かな教育環境を求める留学生側とのミスマッチが生じやすい。

パターン⑤-1 「分校」



分校とは…

本校から遠い所に住む生徒・児童が通学するために、本校から離れた所に設けた学校。

県内にも分校は残っているが、多くの分校が閉校・休校となっている。

パターン⑤-2 「分校」

《メリット》

- 通学距離が短くなるため、体力的・時間的に負担が少ない。
- 少人数だとより丁寧な指導を期待できる。

《デメリット》

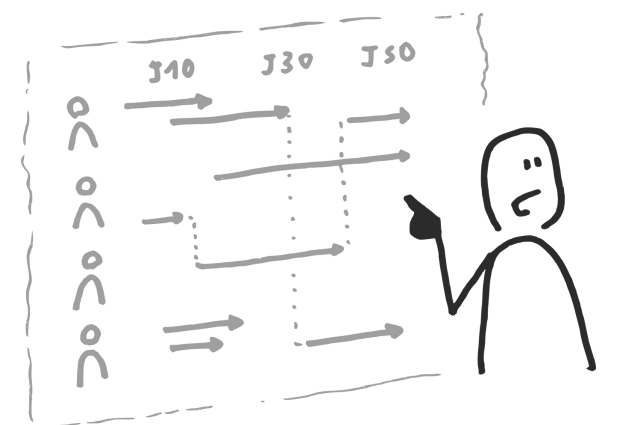
- 校長・教頭・養護教諭・事務職員は本校と兼務。
- 兄弟姉妹で違う校舎に通う場合がある。
- 少人数だと共に話し合い学ぶ経験を持ちにくい。
- 行事など本校と分校のすり合わせが難しい。

パターン⑥-1 「学校の再編」

【事例】 富士見町立落合（おちあい）小学校

平成23.3月 落合小学校閉校→富士見小学校、境小学校に統合

- 平成26年度から複式学級が恒常的に継続する推計となり、教育・学習環境の格差を是正するため統合。
- 地域の要望により、通学の安全を図るため富士見小学校へはスクールバスを必須とした。
- 統合を進める中で、地域から心配の声が寄せられたが、保護者の多くが統合を望んでいたことで統合が進んだ。
- 現在は、富士見小学校へ約20名スクールバスで通学。



パターン⑥-2 「学校の再編」

《メリット》

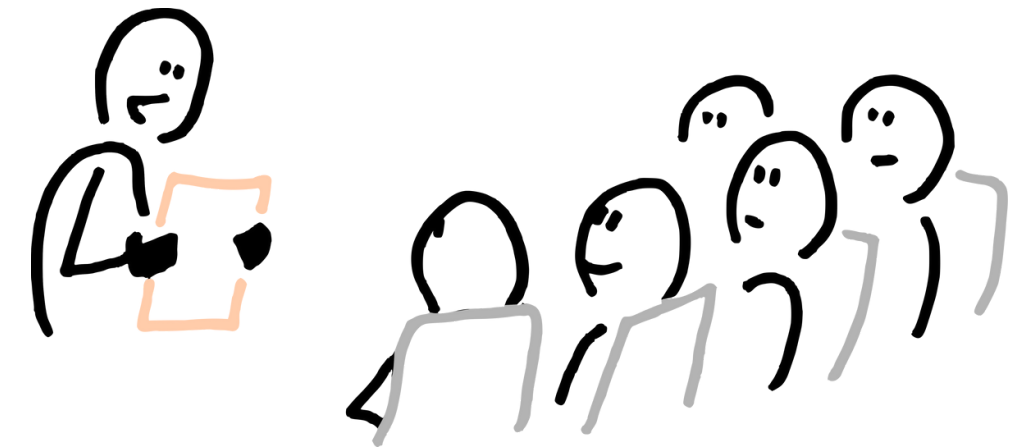
- 複式学級、男女比の偏りの解消。
- 多様な指導形態の実施。
- 建て替え費用の削減。
- 一定の児童数を確保できるので、国や県から加配を受けることができる。

《デメリット》

- 再編のはじめの段階では、環境変化に伴う子どもたちへの負担がある。
- 通学距離が遠くなる。
- 学校と地域との関係性の希薄化。

4

「保護者対象の地域対話」の報告



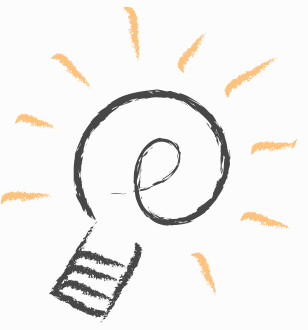
参加状況

	1回目 参加者	1回目 アーカイブ配信	2回目 参加者	2回目 アーカイブ配信
永明小学校区	6 名	4 回	2名	25回
宮川小学校区	12 名	7 回	5名	14回
米沢小学校区	15 名	29 回	2名	66回
豊平小学校区	6 名	16 回	4名	20回
玉川小学校区	9 名	12 回	4名	39回
泉野小学校区	50 名	85 回	24名	46回
金沢小学校区	21 名	36 回	10名	29回
湖東小学校区	6 名	9 回	3名	6回
北山小学校区	12 名	69 回	7名	54回



1 回目の対話で寄せられた考え

- 学校を残してほしい。
- 9校維持や学校の特色を活かした存続方法の検討をしてほしい。
- 児童数の減少・男女比の偏り・小規模学校の関係性固定化を懸念。
- 通学範囲が広範囲となるため、通学方法は課題である。
- 中学校単位に小学校集約化の提案。
- 学校規模・男女比の偏り・通学距離を理由とする学校選択制の提案。
- 学校と他施設の複合化の提案。
- 施設をシェアするサテライト型スクールの提案。
- 分校制度を利用し、年齢に適した学習環境構築の提案。
- 他市町村で実施している特認校や分校など事例の共有をしてほしい。
- 財政状況も提示し検討を進めてほしい。
- 学校は防災拠点という役割も重要である。



2回目の対話で寄せられた考え

- 自分の子が通う学校が再編の対象となっているのか聞きたい。
- 学校はコミュニティの拠点として、まちづくりと一体的に検討したい。
- 地域に根差した学校を残すことは、茅野市の魅力となる。
- 児童数の平準化について検討してほしい。
- 選択肢があることは、機会の均等という点で良い。
- 学校が地域に果たす役割は、学校機能が無くなっても残せる。
- 再編する場合は、小中一貫教育を構築してほしい。
- 市のビジョンとして、市街地へ人口を集中させるのか示されていない中、学校再編の議論をするのは困難。
- 子ども達に9校維持の税負担を残すことが最良の環境なのかを考えたい。
- 財政判断は市に委ね、教育環境や学校運営で保護者の意見を反映してほしい。



対話でご提案いただいた具体的な教育環境

程よいクラスの
人数は25~30人

1クラス20人で
2学級

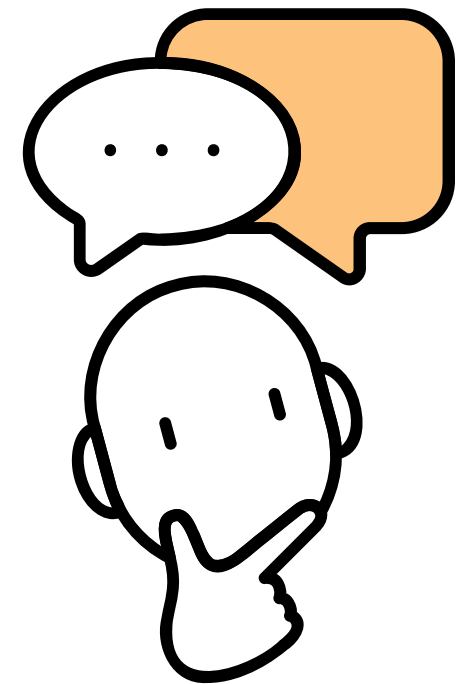
地域の人や異年齢の人
とのかかわり大事

単級
人間関係が崩れた時
逃げ場がない

地域に素敵な大人
がいることが魅力

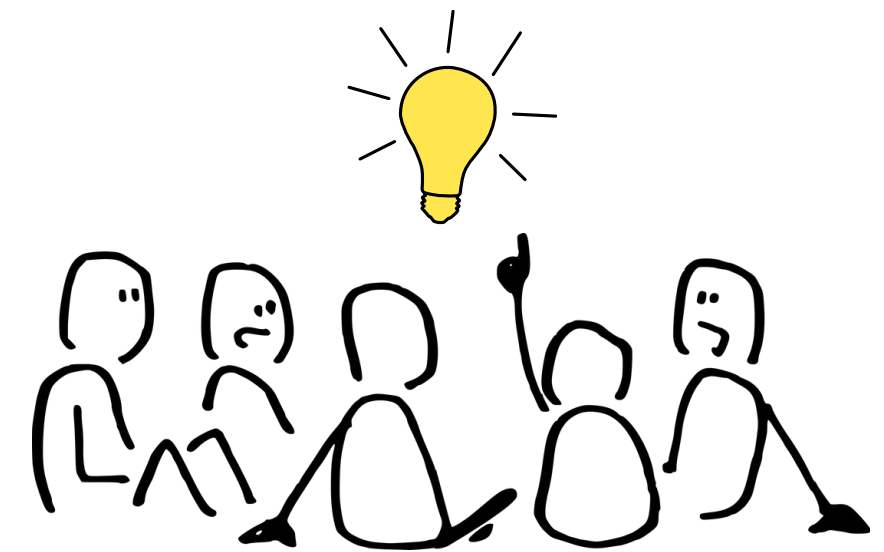
100人規模にして
学校数を増やす

30人超だと
多くの意見が出るが
処理できていない



5

地域対話



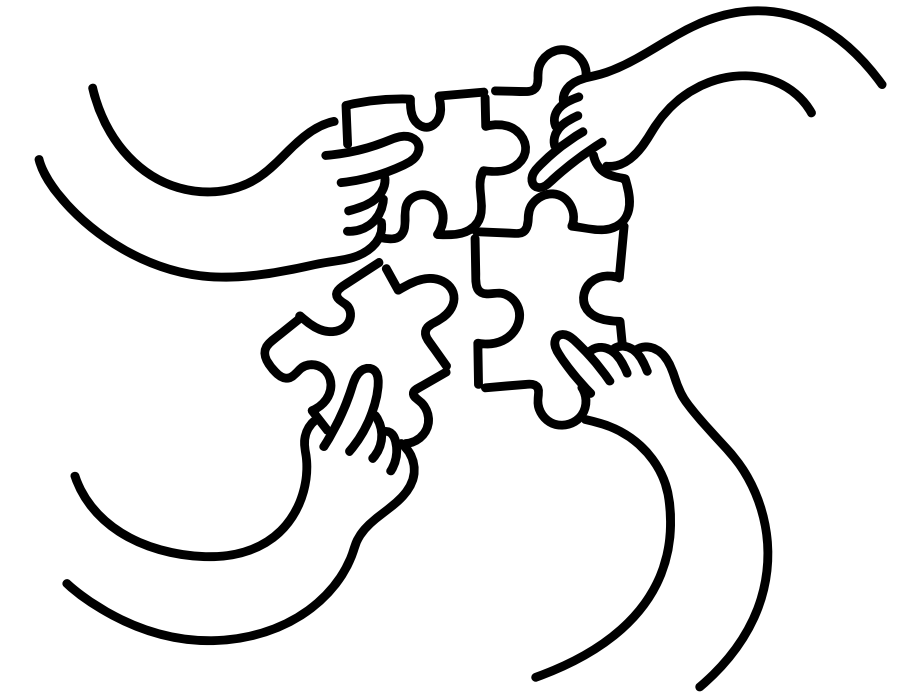
未来の子供たちの教育環境を考える

保護者の皆さんの
意見をふまえて



みなさんはどのように考えますか？

- ① 未来の子ども達の教育環境
- ② 地域にあったパターン
- ③ パターン同士の組み合わせ
- ④ 新しいパターン



6

事務連絡



資料とアンケート

本日の資料（電子版）

本日の資料の電子版は下記URL、またはQRコードからご確認いただけます。



https://drive.google.com/file/d/1TtZF-JJzUIKgRa6eeGKGd4FafuMbmXjE/view?usp=drive_link

アンケートフォーム

ご意見や質問のある方は下記URL、またはQRコードからご回答ください。



<https://logoform.jp/form/tKkC/1088141>

[illegible]